

第4回次世代ポリオレフィン総合研究発表会プログラム

日時: 2009年8月3日(Mon) 13時 ~ 4日(Tue) 16時30分

場所: 東京大学駒場キャンパス 11号館 1101教室

8月3日	発表者	座長	所属	講演題目
開会の辞	寺野 稔		北陸先端大	
12:30-13:10	田中栄司	寺野	三菱化学	地球環境問題とポリオレフィン
13:10-13:30	大嶋 正裕		京大	ナノスケールの多孔構造をもつポリオレフィンベースの高分子微細発泡体の創製
13:30-13:50	隅田 憲武		シャープ	廃家電回収ポリプロピレンのマテリアルリサイクル
13:50-14:10	松村 英樹		北陸先端大	ポリオレフィンを基板に用いる超大画面平面テレビの新製法
14:10-14:25	休憩			
14:25-14:45	塩野 毅	菅野	広島大	塩化コバルト-アルミノキサン-フォスフィン系触媒によるレジオブロックポリブ タジエンの合成
14:45-15:05	藤谷 忠博		産総研	バイオマスエタノールからプロピレンを製造するプロセス開発
15:05-15:25	菊池 広允		東京インキ	ポリオレフィン樹脂用着色剤
15:25-15:45	徳満 勝久		滋賀県立大	ポリシラン添加によるシクロオレフィン材料の物性改質
15:45-16:00	休憩			
16:00-16:20	平野 博之	長谷部	積水化学工業	ポリオレフィン射出発泡技術と展開
16:20-16:40	豊田 昭徳		東京農工大	高分子型添加剤の合成とその性能
16:40-17:00	小柳津 英知		富山大	世界的な製品市場の寡占化に伴う競争政策の変化とポリオレフィン業界再編への影響
17:00-17:20	小林 俊哉		富山大	次世代研究探索プログラムにおける石油化学技術の位置付け
17:20-17:40	篠崎 香織		東京富士大	石油化学メーカーにおける知識移転 - 研究開発から実用化に至るプロセスの分析 -
18:00-20:00	懇親会(同キャンパス内 駒場食堂) 司会: 谷池、挨拶: 宮竹			
8月4日	発表者		所属	講演題目
9:00-9:20	谷池 俊明	岡本	北陸先端大	不均一系Ziegler-Nattaプロピレン重合における選択性と活性点近傍の立体的柔軟性に関する第一原理計算
9:20-9:40	志賀 昭信		ルモックス技研	MgCl ₂ 担持プロピレン重合触媒における内部ドナーの役割 - その2
9:40-10:00	東川 芳晃		住友化学	ポリオレフィンの製品設計と成形加工のCAE
10:00-10:20	野口 裕司		三井化学	次世代オレフィン系エラストマーの開発と展開
10:20-10:40	山田 理恵		東北電子	化学発光法によるポリオレフィンの安定性評価について
10:40-10:55	休憩			
10:55-11:15	船木 章	山口	出光興産	ベルトプロセスを用いた高付加価値商品の開発
11:15-11:35	内山 陽平		新日本理化学	β 晶核剤添加PP系における分子鎖配向制御による力学的異方性の発現
11:35-11:55	高山 暢久		三菱レーヨン	ポリオレフィン用高分子改質剤の性能と特長
11:55-12:15	堀田 篤		慶応大	ポリオレフィンとダイヤモンドライクカーボンの接着と応用
12:15-13:15	昼食			
13:15-13:35	中谷 久之	魚住	北見工大	精油の抗酸化作用を利用した機能性ポリブテンの開発
13:35-13:55	加々美 守		プライムポリマー	高密度ポリエチレンの高機能化
13:55-14:15	加地 栄一		東ソー・ファインケム	固体アルミノキサンの現状とTFCの取り組み
14:15-14:35	山本 敏治		旭化成エンジニアリング	微視的損傷を組込んだ新しい樹脂材料構成則と自動車部品への適用 - ポリプロピレンを例に -
14:35-14:55	時久 昌吉		日本製鋼所	加熱エアの流動を考慮したポリプロピレンフィルムの延伸工程における変形挙動の予測
14:55-15:10	休憩			
15:10-15:30	佐藤奈津子	筒井	住友化学	高分子安定剤の役割について
15:30-15:50	新田 晃平		金沢大	メソフェーズPPの構造と力学物性の関係
15:50-16:10	黒田 真一		群馬大	PS/ケナフ繊維複合材料の力学物性に及ぼす高分子カップリング剤の影響
16:10-16:30	清水 史彦		三菱化学	Mg担持触媒を用いたプロピレン重合における分子量・立体規則性の経時変化
閉会の辞	郷 茂夫		プリディクション郷	